

旧日本銀行岡山支店の再生・活用に至る一連の活動

旧日銀岡山支店を活かす会 | NPO 法人バンクオブアーツ岡山 殿

正会員 佐藤 正平 君

正会員 西澤 英和 君

岡山 県 殿

1922年に竣工した旧日本銀行岡山支店社屋（設計：長野宇平治）は長年にわたって地方都市の経済活動の要として機能した施設であるとともに、現在では岡山県にとって重要な近代遺産のひとつである。同施設は1987年まで同銀行業務に使用された後、同支店の移転のため、岡山県が土地と建物を取得し県立図書館として再生を試みたもののその後の計画変更で再生利用がとん挫状態にあった。その後、岡山県の有識者、県民、企業家などから構成される「旧日銀岡山支店を活かす会」の十余年間にわたる積極的な同支店の保存再生活動によって、岡山県の厳しい財政的な制約の中で二期に分けて保存再生工事を進め、市民参加による手作りの再生事業を成し遂げている。

同施設の保存再生においては、銀行執務ホール部分について室内楽を中心とした多目的ホールとして再生することを目指して、大空間ホールの屋根トラスの耐震補強のために新設したメガ柱を既存の天井と屋根部分の解体を最小限に留めて小屋裏内で既存トラスと一体化させるなど、多くの工夫がなされている。このメガストラクチュアは、同施設の重要なホールの歴史性と意匠性を損なうことなく構造の補強を果たすとともに、新しい建築技術と意匠性を同ホールに与え、保存部分の豪壮さを一層実感させるものとなっている。

また、第二期工事においては、金庫棟を最小限に改修・整備し、カフェ、ギャラリー、スタジオ、ワークルームに再生し、幅広い市民が利用しやすい形態として、企画・運営している。これによって、施設は、旧支店の堅牢さに寄り添うモダニズムとしてエントランスと管理事務所を右脇に配置する一方で、左脇には都市型庭園として、市民の催しや野外演奏会等への活用を考えた中庭を配置し、カフェやギャラリー等に繋がる空間を生み出している。これによって、近代遺産としての保存とともに、都市に新たな市民の憩いの場として再生している。

同施設の企画運営については、指定管理者制度により県から委託された NPO 法人バンクオブアーツ岡山（「旧日銀岡山支店を活かす会」の役員を中心に設立）が担当し、開館準備も含め、幅広く県民が施設を文化芸術活動の多面的な創造に活用し得るように様々な企画を生み出し運営を続けることによって、同施設の活発な利用を果たすとともに、県の財政負担を極力軽減することに成功している。

本保存再生事業は、市民組織と地方自治体の連携、そして建築学の専門家の創造的な関与を通して、多面的な活動が総合され、地方に残る貴重な歴史的建物の保存再生利用を可能にした業績として高く評価出来る。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。